令和6年度　認定こども園における学校評価　　自己評価シート

社会福祉法人さとに会
こやまこども園

1. 教育・保育理念

愛がいっぱい　笑顔あふれるこども園

2. 教育・保育基本方針

・常に利用者の立場に立ってニーズに応え、サービスの向上に努めます
・一人一人の人格を尊重し、互いの信頼関係をよりよく構築します
・地域・自然・人とのかかわりの中で豊かな人間性の育成をめざします

◎項目及び項目4の評価結果の表示方法

A	十分達成されている	B	達成されている
C	取り組まれているが、成果は十分でない	D	取組が不十分である

3. 重点目標

・豊かな地域の自然を生かした体験活動を通し、豊かな心の教育・保育の充実

4. 研究テーマ

『一人一人がいきいきと遊び、友だちと仲よく遊ぶ子』
～様々な体験や活動を通して豊かな感性を育んでいく～
～発達を捉えた環境の工夫をしながら、子どもの主体性を育んでいく～

3　①　園内外の自然を活動や遊びの中に取り入れる。
　　②　身近な地域の中に出かけたり、遊んだりする中で、見たり、聞いたりしたことを表現することを楽しむ。
4　①　発達段階や興味・関心に応じ、意欲的、主体的に活動できる環境を構成する。
　　②　遊びや活動をする中で、興味・関心を持たせたり、引き出せるような援助を工夫する。

5. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	結　果	理　　由
①意欲的、主体的に遊びや活動に取り組めるような教材や遊具、コーナーづくりなど工夫し、環境を構成する	B	遊びの環境は工夫されているが、しまってある玩具が多く、自主的な遊びの機会が制限されることもある。異年齢交流では遊びのコーナーを設置し、多様な遊びを楽しめるよう工夫されているが、縦割り保育では環境設定が難しい。行事に向けた活動が多く、意欲や主体性を育む面では有意義だが、子どもが興味のある遊びをじっくり楽しめる時間の確保も必要と感じる。職員同士で環境構成を話し合いながら改善を進めている。
②身近な自然と関わる遊びや活動を指導計画に取り入れ、気づきや発見、学びに繋がるような援助をする	B	園庭や畑などの自然環境を活かし、季節ごとの遊びや食育を取り入れている。園児たちは自然物に触れ、五感を使って楽しみながら学んでいる。散歩や自然遊びを通して気づきを大切にし、共感する保育が実践されているが、行事に追われることで計画通りに進められないこともある。クラスごとに取り組みに差があり、環境や教材の充実が課題と感じる。今後も自然に対する多様な視点を持ち、工夫を重ねていく必要がある。
③遊びや活動の中で、感じたことや発見したこと、気づいたことなどを、言葉や表情などで素直に表現できる機会を逃さず、応答する楽しさや共感する場面を展開する	B	園児一人ひとりの遊びの様子を観察し、会話やつぶやきに共感しながら関わることを大切にしている。子どもたちの気づきや発言を拾い、遊びや保育に広げるよう努めているが、表現が苦手な子も多く、さらなる応答の工夫が求められる。クラス内では共感を意識しているが、園全体での機会を増やすことも課題。保育者の関わり方が一方的にならないよう配慮が必要である。

6. 総合的な評価結果の概要

結果	理　　由
B	四季を通じ、園内外にある自然環境を遊びや活動に計画的に取り組み、園児の発達や成長に繋げていきたいと目標を持っていた。年齢に応じて園庭の木々や草花、小さな虫などに触れ合ったり、園外へ出て秋の木の実や紅葉している葉っぱを拾ったりして、五感で自然を感じることができたが、年間に計画している行事との兼ね合いもあり、計画通りに進めることが難しいことがあった。 年齢別の保育や異年齢交流保育では、環境づくりに工夫しながらも、園内にある遊具や教材をしっかりと活用しきれていないことがあったり、じっくりと取り組む時間づくりに工夫が必要だったりと課題があるので、職員間での話し合いや研修を重ねていくことが必要。 また、子ども達が様々な方法で表現することの楽しさや、思いを出し合っていく嬉しさなどを共感し、更なる環境づくりや意欲につながるような援助の工夫が必要。

7.学校関係者評価

今年度は、発表会以外にも何度か保育の様子を参観させていただきました。園児が育てたミニトマトをおいしそうに食べている様子から、五感で自然を感じさせる保育の工夫を垣間見ることができました。また、発表会では、保育者が園児の気持ちに寄り添い、園児のよさを引き出そうとされておられました。今後も、園児が意欲的、主体的に遊びや活動に取り組みことが出来るよう、保育の工夫や環境づくりに取り組んでいただけたらと思います。

学校関係者評価者	接続する小学校教員（　湖山小学校　）